

授業科目名 英 文 名 ナンバリングコード	教養特殊講義 現代社会と法 I T ・ A I と現代法制		授業科目区分				職名	担当教員
	対象学期	対象学年	単位数	授業方法				
	99905 II AJ		夏期集中	2年	2単位	講義		教授 森脇 祥弘
授業概要	<p>オンラインでのAIサービスの提供、コンテンツの生成、カード不正利用の検出、画像解析など個人からビジネス領域まで、高度な学習能力と推論能力を有する情報技術の活用可能性が広がっている。一方で、個人個人の人格を推認させる情報が与り知れぬうちに収集分析評価され、差別・排除の対象とされたり、フェイクとは判別困難な情報の氾濫、更には映画等で予見された意思決定を無批判・無検証のうちに機械に依存することによる失敗、自律型兵器への懸念も現実のものとなりつつある状況である。こうした状況を踏まえ、AIなどITの発達の現状と将来見通し、その利活用を潜在するリスクを制御しつつ図って行くという視点から、その法的な課題と対応の方向性につき、県内外の知見を結集し学ぶ。</p> <p>【授業の狙い】「専門知識を養いリーガルマインドを身につける(CP2)」「社会・地域・組織の一員(DP4)」としての能力を習得することを狙いとする。</p> <p>【コースとの関連】全てのコースで重要な科目である。</p>							
到達目標	<p>AIなどITの発達の現状と将来見通し、その利活用の可能性と潜在するリスクについて涵養した意識と知見に立脚し、今後も予想される技術の進展と発生する問題・課題の意味をフォロー・理解することを通じ、社会人・主権者としてそれら技術の活用と規律の在り方を意識的に洞察しこれを自ら実践する力を身につけること。</p>							
実務経験の有無	x	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	講義は大学教員・有識者・専門家等のゲストスピーカーを招聘し実施する。(登壇予定の講師等は講義1か月前を目途にウェブサイトにて公開する)。					
コンピテンシー(行動特性) 「伸ばすことのできる能力」	協調性		傾聴力		創造力		論理的思考力	
	○		◎		○		◎	
講義方法	配布資料・スライド・映像等を用い講義する。							
授業計画	回数	内容						
	第1回	ロボットに命を吹き込む人工知能 ～基礎から生成系人工知能まで シャープ(株) 亀井俊之氏						
	第2回	SF・SF映画が描き出したIT・AIの光と影 SF作家 浅尾 典彦 氏						
	第3回	同上 SF作家 浅尾 典彦 氏 (全体構成説明(含論点出し)) 本学教員 (以上8月26日(月))						
	第4回	自律型兵器システムと国際法 京都産業大学 岩本 誠吾 氏						
	第5回	陸上自律型兵器システムの規制議論 同上						
	第6回	無人海上システムと海戦法規 本学 吉田 靖之 氏 (以上8月27日(火))						
	第7回	AIと情報法(総論) 新潟大学 鈴木 正朝 氏						
	第8回	AIと知的財産法 国立情報学研究所 佐藤 一郎 氏						
	第9回	AIとフェイク情報 同上 (以上8月28日(水))						
	第10回	AIとビジネス 北陸先端科学技術大学院大学 内平 直志 氏						
	第11回	AIと司法 成城大学 町村 泰貴 氏						
	第12回	AIと人権 慶應義塾大学 山本 龍彦 氏 (以上8月29日(木))						
	第13回	AIの「犯罪主体」性 新潟大学 根津 恍希 氏						
	第14回	国内外の準則策定状況 総務省 山野 哲也 氏						
第15回	IT・AIと経済法 本学 沢田 克己 氏 (以上8月30日(金))							
評価方法	レポート(60%) 平常点(40%)。 なお、受講態度が講義及び他の受講者の聴講の妨げとなり、注意しても改まらない場合は、退出・以後の入場禁止・平常点減点・失格・所属教育機関への連絡、等の対応をやむを得ず探る場合がある。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法	レポートの総評を本学Google クラブルーム・システムでに提出する。							
使用資料	テキスト	資料を配布または投映する。						
	参考図書	各授業の中で紹介する。						
受講上の注意、備考など	<p>本科目は県大学コンソーシアムの単位互換科目であり、県内高等教育機関在籍の学生は所属教育機関で定める条件に従い単位を取得できる。夏季集中講義のため、実施態様については告知を参照すること。本学開講科目で成績評価・単位認定の資格を得るには、3分の2以上の講義回への出席とレポートの提出を要する。技術的にも法的にも先端の課題を扱う科目のため、平素から関連の報道や論説に意識的に目を通しておき、全回出席すること。詳しくは初日の授業で説明する。</p>							
事前・事後学習(学習課題)	事前	各回の授業計画を見ながら、メディア・図書検索等で予習(60分程度)						
	事後	授業内容について配布資料・ノートを参考にしながら復習(60分程度)						
オフィスアワー								